

演習 1 総合問題

漢字の読み・漢字の書き取り
随想・文学史(現代)

学習日 得点 100

漢字 次の漢字についての問いに答えなさい。

- ① 次の①～⑧の傍線部の読みを書きなさい。 [各2 計16点]
- ② この道は右折禁止だ。
③ 美しい音色に耳をすます。
④ 白壁の土蔵が並ぶ通り。
⑤ 雨天決行の予定だ。
⑥ 恐ろしい形相でにらむ。
⑦ 肉面の表情があらわれた顔つき。
⑧ 雨の音は雑沓。

② 次の①～⑥の語の読みを書きなさい。 [各2 計24点]

① 少女	② 早速	③ マグネット	④ コンパス
⑤ 提出	⑥ 選手	⑦ 手網	⑧ 小川

①の女の音にはほかに「メウ」などがある。たゞ「メウ」は「メウ」の音でなく「メウ」の音である。たゞ「メウ」の音でなく「メウ」の音である。たゞ「メウ」の音でなく「メウ」の音である。

- ③ 次の①～⑧のカタカナを漢字で書きなさい。 [各2 計16点]
- ① 銀でサイクをした装飾品。
② 男性二人のキョウダイ。
③ お正月のカドマツ。
④ フライ製で給料をもらう。
⑤ 季節はシヨカ。
⑥ 山の上のチヨスイチ。
⑦ 勝負のメイアンを分ける。
⑧ セケンの評価を気にする。

④ 次の①～⑨のカタカナを漢字で書きなさい。 [各2 計24点]

① 新聞	② 記事	③ 答案	④ 採点
⑤ 乗船	⑥ 行列	⑦ 温室	⑧ 貧弱
⑨ 郷里	⑩ 方言	⑪ 商売	⑫ 思案

〔カタカナ語・意味〕 アイデンティティ

解説

随想

どんな物でも目鼻を描くと生命が誕生する。人形は黙って愚痴を聞き、じっとみつめているだけなのでありがたい。おのれの弱さを知る心が、人形を生あるもののように感じさせるのだらう。

問1 さまざまな種類があることを表した四字熟語を選ぶ。

- (イ) 八方美人(だれからも好かれるようにふるまう人。)
- (ロ) 八面六臂(一人で多方面にわたって大活躍すること。)
- (ハ) 多種多様(いろいろ、さまざま様子。)
- (ニ) 多士済々(すぐれた人材が多いこと。)
- 問2 Aの前と後で異なった見解を述べているので逆接でつなぐ。なお、次に接続語の働きを示しておく。
- 順接: 前の文が原因や理由となり、その結果が後に続く。(だから、そして...)

随想 次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。 [14点]

布の袋でも、樺つきれでも、石ころでも、なんでもいい。手早く目鼻を描くと、たちまちそこに一箇の生命が誕生する。それぞれに性格があり、それぞれに顔つきがちがう。ひとつとして同じ個性の人形ができないところが妙だ。人形を抱いて寝る、というのはぼくは苦手である。A、枕元に置いておき、寝つけぬ夜など人形を相手に独り言をいうなんてのは悪くない。人形だから、こちらの話のBを折ったりはしないだろう。皮肉なあいづちを打ったりもすまい。黙って長い愚痴をきき、黙ってじっとみつめているだろう。そのほうがかえってありがたい。人間は弱い存在だと最近つくづく思うようになった。そのおのれの弱さを知る心が、人形を生あるもののように感じさせるのはあるまいか。(五木寛之「ちいさな物みつけた」)

文学史 次の空欄A・Bを補いなさい。 [各3 計6点]

昭和三十年代になると、政治・社会の問題にも積極的に発言する作家たちが台頭した。『裸の王様』のAや、『死者の奢り』『飼育』のBらが有名である。

A 開高健 B 大江健三郎

問1 傍線部①の内容を表した四字熟語として最も適切なものを、次のウの中の中から選んで、符号で書きなさい。 [3点]

- (イ) 八方美人 (ロ) 八面六臂 (ハ) 多種多様 (ニ) 多士済々

問2 空欄Aを補つのに最も適切なものを、次のウの中の中から選んで、符号で書きなさい。 [3点]

- (イ) さししかし (ロ) さししまり (ハ) さしつ (ニ) つまみ

問3 空欄Bには、体の一部を表す語が入ります。これを補つのに適切な語を、漢字一字で書きなさい。 [4点]

問4 波線部「一箇の生命が誕生する」とは、どういふことですか。次の文章の空欄を補つのに適切な語句を、上の文章の中から5文字で抜き出して書きなさい。 [4点]

生あるもの

「日本の花」といえばなに?

日本で花といえば、まず桜が思い浮かぶのではないのでしょうか。しかし、桜が一般化したのは平安時代のことです。奈良時代では、「花」といえば梅だったのです。

〔答え〕 自己同一性

文学史

昭和三十年代には、戦後の教育を受けた若い作家が台頭した。政治・社会の問題にも積極的に発言するようになったことから、「社会派」と呼ばれることもある。『太陽の季節』の石原慎太郎、『裸の王様』の開高健、『死者の奢り』『飼育』の大江健三郎のほか、『バルタイ』の倉橋由美子らが活躍した。

演習 2 総合問題

漢字の読み・同音異字・漢字の書き取り
評論・文学史(現代)

学習日

得点

100

解説

行為は、認識の糸口となる。行為がひとに受苦をもたらすし、自己と現実・他者との対立が顕在化することによってはじめて、ひとは真の認識に達するのである。

漢字 次の漢字についての問いに答えなさい。

① 次の①～⑧の傍線部の読みを書きなさい。 [各2 計16点]

- ① 彼とことはを交わした。
- ② 軽やかにダンスをする。
- ③ 黙ってナイフを研ぐ。
- ④ 数百人が会場に集う。
- ⑤ 都会で商いを始める。
- ⑥ 東北地方の重歌。
- ⑦ 春が近づき寒さが和らぐ。
- ⑧ 失敗を気に病む。

⑤	あきな	⑥	わらべ	⑦	やわ	⑧	や
①	か	②	かろ	③	と	④	つど

② 次の①～⑥の語の読みを書きなさい。 [各2 計12点]

④	伝言	⑤	次第	⑥	留守
①	嫌疑	②	化学	③	宮殿
④	宣言	⑤	目次	⑥	留守
①	けんお	②	かがく	③	きゆうでん
④	せんげん	⑤	けしん	⑥	ぐうじ
④	でんごん	⑤	しだい	⑥	しゅび
					るす

②の①の訓読は「けんお」である。③の②には「かがく」という音もある。ただし「かがく」は「かがく」の訓読である。

③ 次の①～④が熟語になるように、カタカナを漢字で書きなさい。 [各2 計16点]

①	医	②	起	③	簡	④	重
①	遺意	②	期	③	感	④	帳

④ 次の①～②のカタカナを漢字で書きなさい。 [各2 計12点]

①	勉強	②	落第	③	運動	④	消化
⑤	階段	⑥	部室	⑦	耳鼻	⑧	調子
⑨	旅行	⑩	予定	⑪	家族	⑫	正直

② [カタカナ語・意味] マイノリティー

評論 次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。 [14点]

しばしば、行為や行動は認識と反対のように思われているが、それは表面的な見方にすぎない。行為や行動は、むしろ認識の端緒をなすものである。ひとは行為や行動によって現実や他者と深くかかわり、それらに対してわが身を曝すことになる。そしてそのとき、われわれ人間は、身体をもつたものとも傷つきやすい存在として、痛切にものを感じざるをえない。[A]、行為は受苦をもたらすことで、通常隠されていた自己と現実や他者との関係を知るにだし、それによってはじめてひとは、上つ面でない認識、深い認識に達するのである。(中村雄二郎「哲学への誘い」)



文学史 次の空欄[A]・[B]を補いなさい。 [各3 計6点]

第二次世界大戦が終わってから間もなく登場した作家たちを「戦後派」という。「野火」を書いた[A]や、実際に起こった放火事件をもとにして「B」を書いた三島由紀夫らが有名である。

A 大岡昇平

B

金閣寺

問1 傍線部①の意味として最も適切なものを、次のア～ウの中から選んで、符号で書きなさい。 [3点]

- ア 糸口
- イ 根拠
- ウ 前提
- エ 末端

問2 傍線部②がさしているものとして最も適切なものを、次のア～ウの中から選んで、符号で書きなさい。 [4点]

- ア ひとびと
- イ 認識
- ウ 行為や行動
- エ 現実や他者

問3 空欄[A]を補うのに最も適切なものを、次のア～ウの中から選んで、符号で書きなさい。 [3点]

- ア しかし
- イ つまり
- ウ あるいは
- エむしろ

問4 傍線部③に達するまでの過程を端的に示したものとして最も適切なものを、次のア～ウの中から選んで、符号で書きなさい。 [4点]

- ア 行為→現実→認識
- イ 現実→行為→認識
- ウ 行為→身体→認識
- エ 行為→受苦→認識

夏目漱石は「がんこ者」?

夏目漱石の号が「漱石」の成句に由来することは周知の事実です。「石に漱し、流れに漱く」と言うべきところを、「石と流れ」を反対に言ってしまった男が、あくまでも「これでよい」といつけた故事に於けるため、「自分の非を認めないがんで者」という意味です。ここで、あまり知られていない事実を一つ。この号は、当初、親友の正岡子規の号でした。漱石はこの号を子規から譲り受けたのです。

[答え] 少数派

問4 「受苦」とは、ここでは、「悲しみや苦しみを」痛切に感じることを。行為が受苦をもたらすし、受苦が認識をもたらすことを読み取る。

文学史

第二次大戦中の暗い体験を文学の出発点とする作家たちを、「戦後派」という。「暗い絵」の野間宏、「ひかりごけ」の武田泰淳、「野火」の大岡昇平、「金閣寺」の三島由紀夫、「砂の女」の安部公房など、個性的な作家がそろっている。

演習 3 総合問題

漢字の読み・漢字の書き取り・熟語の作成
小説・文学史(近代)

学習日

得点

100

解説

小説

要旨

「私」は、娘の初めての雛祭り(ひなまつり)を完璧に準備した。しかし、姑は、不備なところがために自分が孫に何かしてやる隙間がなく、逆にさみしかった、と本心をもらした。

- 漢字 次の漢字についての問いに答えなさい。
- ① 次の①～⑧の傍線部の読みを書きなさい。 [各2 計16点]
- 出席の有無を確認する。
 - 事件の波及を恐れる。
 - 指図に従う。
 - 種子が発芽する。
 - 出世して社長の地位を得た。
 - 鉄板を加工する。
 - 旅客の安全が第一だ。
 - 友人と酒場に行く。
- | | |
|-------|------|
| ⑤ | ① |
| しゅっせ | うむ |
| ⑥ | ② |
| てっばん | はぎゅう |
| ⑦ | ③ |
| りよかく | さしず |
| ⑧ | ④ |
| りよきやく | はつが |
| | さかば |

- ② 次の①～⑥の語の読みを書きなさい。 [各2 計12点]
- 定価
 - 反対
 - 平価
 - 定規
 - 一対
 - 平等
 - 生命
 - 楽器
 - 内容
 - 寿命
 - 楽勝
 - 参内

④	①
じゅみょう	ていか
⑤	②
らくしやう	はんたい
⑥	③
さんだい	びやうどう

- ③ 次の①～⑩のカタカナを漢字で書きなさい。 [各3 計30点]
- オクジウで布団をはずす。
 - 利益をツイキユウする。
 - 夕食のシタクをする。
 - ネットウで消費する。
 - へそくりを株にトウシする。
 - 交通事故によるフシヨウ。
 - 香港ケイユの飛行機。
 - 友人宅をホウモンする。
 - 事件のホツタンを説明する。
 - 道路をオウダンする。
- | | |
|----|----|
| ⑥ | ① |
| 負傷 | 屋上 |
| ⑦ | ② |
| 經由 | 追求 |
| ⑧ | ③ |
| 訪問 | 仕度 |
| ⑨ | ④ |
| 発端 | 熱湯 |
| ⑩ | ⑤ |
| 横断 | 投資 |

- ④ 次の①～⑧の空欄に共通の漢字一字を補つて、熟語が出来ます。例にならうて、その漢字を書きなさい。 [各1 計8点]
- 例 心・全・物 答 安(安心・安全・安物)

⑤	①
持温	
⑥	②
実油	
⑦	③
頭配	
⑧	④
感品	

?(時事用語・意味) TPP

小説 次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。 [16点]

「私」は、娘の初めての雛祭りをきびやかに調えるが、実家の父に「やりすぎだ」と叱られてしまう。その後、「私」が姑にそれを報告する。姑は「残しておいては良かった」と話した。

ああ隅から隅まできちんとできていては、祖母の心の入りこむ隙が見つからない。なにか足りないものもあれば、また来年も雛の買ひものをして「A」へ贈る楽しみもあるのにと、あじきない気がした。不備なところのあるほうが親しさのともになるとおもう。けれどもあらがなさすぎるといつて叱ることはできない。隅々まで気も手もゆきとどいた嫁には、「ご」をいって「ろ」じやない、人に自慢でもしたいようなものだけれど、本心をいえば「二」カ所の隙間を残しておいてくれたら楽しかったろう。できすぎは技量だけれども、欠けがないというのはさみしかった。——と、これが姑のいいぶんである。姑というより、おばあちやまというつながりより、一人の年老いた女としての率直な気持ちが伝わってくる。(幸田文 雑)

文学史 次の空欄A・Bを補いなさい。 [各3 計6点]

大正の末に雑誌『文芸時代』が創刊された。中心となった作家にはAやBがおり、彼らは「新感覚派」と名づけられた。Aの代表作には『日輪』、Bには、『伊豆の踊子』がある。

A 横光利一 B 川端康成

問1 空欄Aを補つのに最も適切な語を、次のア～ウの中から選んで、符号で書きなさい。 [3点]

- ア 嫁 イ 祖母
ウ 孫 エ 母

完備

問3 傍線部②「欠け」と同じ意味で使われている語を、本文の中から漢字一字で抜き出して書きなさい。 [4点]

隙

問4 傍線部③からうかがえる「私」の心情として最も適切なものを、次のア～ウの中から選んで、符号で書きなさい。 [5点]

- ア あまりの言いように強い抵抗を感じている。
イ 年配者のささやかな要望を素直に理解している。
ウ 自分のうかつさを恥ずかしく感じている。
エ 見当違いのいい分に当惑している。

イ

「心太」ってなに?

「心太」は「心もく知つてゐる漢字ですね。では、「心太」とは何のことでしょうか。正解は「心太」です。「心太」は「心太」の「心」が「心太」の「心」に「太」が加わって「心太」になる。「心太」は「心太」の「心」が「心太」の「心」に「太」が加わって「心太」になる。「心太」は「心太」の「心」が「心太」の「心」に「太」が加わって「心太」になる。

[答え] 環太平洋戦略的経済連携協定

の要望としてとらえていることがうかがえる。また、「率直な気持ち」が伝わってくる」とあるので、「私」が「姑のいいぶん」を受け入れていることがわかる。

文学史

昭和初期の文学は、プロレタリア文学と新感覚派が主流であった。プロレタリア文学の活動は、雑誌『文芸戦線』を中心に、新感覚派の活動は、『文芸時代』を中心に展開した。『文芸時代』には横光利一、川端康成らがいた。